

教育訓練について

大学 今回は、2人1組で実験を行っている最中に意識不明者が発生した場合を想定した緊急搬出訓練を実施しました。今回の訓練の手順は次のとおりです。

- ① 2人のうち片方が倒れ、もう片方がそれを発見。倒れた者の意識や怪我の有無を確認(陽圧防護服の上から肩を叩く、無線通信機を通して呼びかける等)
- ② 発見者は実験室内に設置された緊急ボタンを押し、中央監視室に状況説明
- ③ 発見者は意識不明者を搬送用毛布に載せてパスルームまで搬送
- ④ 発見者はBSL-4実験室に戻り、パスルームとの間の気密扉を閉める

パスルームとはBSL-4実験室に隣接する小部屋のことです。通常は使用しませんが、大型機器等の搬入出や実験動物の搬入のために使用する他、今回のような緊急時における意識不明者の搬出にも使用します。また、搬送用毛布とは通常の災害救助等にも使用されている救助用具で、持ち手がついた毛布に意識不明者を乗せ、今回の訓練では床面を滑らせて移動させました。持ち手が付いていることで安定して牽引しやすいため、体格が小さい人でも搬送することができます。今回の緊急搬出訓練では上記の手順の④、すなわち発見者が実験室へ戻るところまでを行いました。来年度以降は、意識不明者をパスルームの外までどのように搬出するかの手順等についても検討してまいります。また、

現在実験習熟訓練で取り扱っているハザラウイルス(ダニから分離されたヒトへの感染例はないウイルス株)、フニンウイルスCandid#1株(フニンウイルスの弱毒株でワクチン株として使用されているもの)、インフルエンザウイルスA/PR/8/34(H1N1)株(広く研究に使用されている一般的な株の一つ)に加えて来年度以降は、上記の3種類と同様のBSL-2ウイルスである、リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)、オロプシェウイルス、ランガットウイルスの3種類を新たに教育訓練で取り扱っていきたいと考えております。これらのウイルスは、ヒトに対しては感染しても重篤な症状を示さない危険度の低いものです。そのほか、これまでのげっ歯類を使用した動物実験訓練に加え、サルを使用した訓練も開始しており、本格稼働後のBSL-4施設での実験に備えてしっかりと訓練を積み重ねてまいります。

住民委員 意識不明者が発生するのは別のケースとして、2人の実験者のうちの片方が何らかのパニックを起こして暴れてしまうということもあり得るのではないかと。そういった時のための対応手順についても考えておくべき。

住民委員 実験者が倒れて動かなくなっている時に、倒れた時の姿勢にもよるが頭とか腰とか大事な部分を打っていることはあり得ると思うので、そのような状況についても対応を検討してほしい。



搬送用毛布
(もうたんか®:帝人フロンティア株式会社)
<https://www2.teijin-frontier.com/product/post/87/>

高度感染症研究センター実験棟(BSL-4施設)における警察通報訓練について

大学 令和7年12月に本学において、令和8年2月に予定している防犯訓練について長崎県警察との打合せを実施いたしました。今回予定している防犯訓練は、高度感染症研究センター教職員、長崎県警察、警備委託業者の三者合同で実験棟における不審者、不審物に対する通報、連絡体制、立ち入り規制等の訓練を行うものです。12月の打合せでは、実際にあった事例を踏まえて現状における防犯対策などについて県警からご助言いただき、有事の際には迅速に通報し、三者が連携して対応にあたるのが重要だとのお話がありました。

有識者委員 訓練は毎年実施してほしいということは以前から要望している。訓練の習熟に合わせて事象のレベルを上げていけば、どのレベルの

事象があったときは実験を止めるべきなのか等の想定が明らかになっていくと思うので、そのあたりも検討してほしい。



警察通報訓練時のホームページ掲載訓練について

大学 令和8年2月の防犯訓練を実施する際に、訓練の一環として、訓練を実施している旨について当センターのホームページに掲載する訓練を併せて行います。この訓練はホームページの役割を、万一大きな事故や災害が発生した際の地域の皆様や報道機関への情報伝達の手段の一つと考え、ホームページを通じて速やかに正確な情報発信を行うという観点で実施するものです。当日は、通報訓練実施時にホームページを更新し、トップページの写真の下に不審者・不審

物対応訓練中である旨の記載を表示します。



地域連絡協議会とは

高度安全実験(BSL-4)施設の運用状況に関する情報を地域の皆様へお伝えし、施設の厳格な管理及び安全な運用を維持するために、長崎県、長崎市及び長崎大学で構成する三者連絡協議会に置かれたものです。

BSLとは

バイオセーフティレベル(Biosafety Level)の略で、ウイルスや細菌などの病原体を生物学的な危険度で分類した指標であり、同時にそれらを取り扱う実験施設の分類です。病原体の分類は、その病原性(病気の重篤度、感染性等)、ワクチンや治療法の有無、公衆衛生上の重要性を考慮して、危険度の高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。それに合わせて、実験施設も、病原体封じ込めレベルや管理レベルの高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。感染すると、有効な治療法がなく、また予防法もない病原体(エボラウイルスやマールブルグウイルス等)にも対応できる、安全性を十分に備えた施設がBSL-4施設です。